

製造資本
の強み

垂直統合生産とグローバル生産で
蓄積されたノウハウを全世界で共有

ミネベアミツミの競争力の源泉である製造資本の強みは、超精密機械加工技術と大量生産を両立する垂直統合生産システムです。また、グローバル生産体制を拡充し、蓄積された製造ノウハウをグループ全体で共有することで、さらに超高精度・高品質製品をスピーディに供給し、世界のものづくりをお支えています。

強み1 垂直統合生産システムの強さ・メリット

ベアリングをはじめとする超精密部品の多くは、ミクロン(100万分の1)、ナノ(10億分の1)の加工精度が求められ、億単位の大量生産が求められます。ミネベアミツミは、自社技術で設計・開発から組立・検査まで社内管理する「垂直統合生産システム」を確立し、製造コストを低減するとともに、高精度かつスピーディな供給を実現しています。

超精密機械加工技術と大量生産を両立させる垂直統合生産システム



強み2 グローバル生産体制のメリット

当社の強みである「多様性」は製造資本でも力を発揮しています。22カ国95拠点に広がる生産・研究開発拠点のなかで、日本国内のマザー工場と、タイ、フィリピン、中国、カンボジアなど東南アジアや欧米の量産拠点が緊密に連携し、多様な市場ニーズに迅速かつ柔軟に対応しています。また、ベアリング、モーター、センサーなど、ほとんどの事業が複数の国に拠点をもち、同一国内でも複数拠点を構えることで、リスク分散体制を強化しています。単なるリスク分散にとどまらず、すべての国の全拠点で「同じ技術、同じ管理」の指導をおこない、生産国が違っても「同じ品質」の製品を生産できる体制を整備することで、例え一部の地

域で生産が止まっても、お客様の要求する水準の製品を供給する、真の意味でのリスク回避を実現しています。また地産地消も視野に入れた「同じ型式の複数工場での生産」を意識したリスク分散も実施しています。



強み3 蓄積された製造ノウハウ

ベアリングの中でも極小・ミニチュアサイズに特化して製造力を磨いてきたミネベアミツミでは、性能・品質・歩留率を極限まで高め、高いレベルで生産性改善に取り組んできました。これらの製造ノウハウは、ベアリング

だけではなく、モーターや電子機器などグループ全体で共有され、当社製品の差別化につながっています。製造支援の専門部隊も編成され、経営統合においても、早期のシナジー発揮を可能にしています。

製造資本
の戦略

環境負荷低減とリスク対策の徹底・
圧倒的な供給力のさらなる向上

ミネベアミツミは製造における環境負荷低減により一層注力するとともに、リスクマネジメントを徹底し、部品メーカーとしての供給責任を果たしていきます。さらに、設備の自動化・部品の内製化などを通して、垂直統合生産体制をより一層強化し、スピーディかつ圧倒的な供給力のさらなる向上を目指します。

戦略1 製造における環境負荷低減

ミネベアミツミは、従来より経営理念・社是に基づき、量産拠点であるタイ、上海工場でも工場ゼロ排水システムの運用をはじめ、環境に配慮した取り組みをおこなってきました。今後も、量産拠点であるタイの主要2工場の太

陽光発電システムの導入を皮切りに、世界的に気候変動・脱炭素に注目が集まる中、環境負荷低減により一層力を入れていきます。

環境への取り組み P.53

戦略2 リスクマネジメントの強化

ミネベアミツミは、世界トップシェアの製品を持つ部品メーカーとして、お客様への供給責任を果たすことが社会的責任であると考え、グローバルな規模でリスク管理体制の拡充に努めてきました。

新型コロナウイルスの感染拡大においても、社長をトップとする対策本部を早期に立ち上げ、感染対策のベストプラクティスや物流、調達、営業情報などをグローバルに共有し、影響を最小限にとどめています。

また、中国での感染流行時は、タイ・カンボジア・フィ

リピンなどで生産をカバーし、続いて世界に感染が拡大した際は中国が他拠点の生産をカバーするなど、分散した生産拠点ネットワークを活用し、工場の操業と顧客への出荷を続けてまいりました。

今後も、トップ・従業員が一丸となって危機に立ち向かい、逆境に揺るぐことのないリスクマネジメントの強化に全力を尽くしてまいります。

コーポレート・ガバナンス リスクマネジメント P.74

戦略3 スピーディかつ圧倒的な供給力の向上

技術革新の変化のスピードはこれまで以上に加速化・多様化し、部品メーカーとしても市場や完成品メーカーのお客様に、より一層スピーディに、大量に、フレキシブルに製品をお届けすることが求められています。

当社は、これまで垂直統合生産で磨いてきた内製部品・生産設備の製造ノウハウを多岐にわたる事業で共有し、生産性を極限まで高めていきます。部品や生産設備の内製化は、コスト低減、生産性改善、急なモデル変更などへのスピーディかつ柔軟な対応を可能にし、当社製品の競争力を強化しています。今後も、さらなる部品・設備の内製化率

の向上、自社の生産設備を活用した自動化の推進、最適な生産監視システムの確立などに取り組んでいきます。

また、タイのバンパイン工場における多目的工場建設への投資、オムロン株式会社のアナログ半導体・MEMS工場取得など、投資やM&Aを通して、常に先手をうち、将来を見据えた生産能力増強をおこなっています。

今後もさまざまな手段で生産性向上、生産能力増強に努め、スピーディかつ圧倒的な供給力をさらに磨き上げていきます。